



南側。街道交流広場を見る。

太子町新庁舎「太子の環」 人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる

選評

兵庫県太子町庁舎は、町のスケールにあわせた「低層分棟形式」の庁舎である。

全体構成は、交流広場を中心にそれを囲むように行政棟、議会棟そして交流棟を配置している。その結果、分棟配置によって生まれた外部空間や隙間、そしてコーナーがさまざまなスケールの心地のよい居場所をつくっている。

計画の目標として、施設をつくり過ぎず、機能や使い方を決め込み過ぎず、住民の使い手に余地を残すことで人びとの想像を促し、町の活性化へつながることを期待している。具体例として、議会

棟一階に配した議場は、中庭に面し開口部をフルオープンとすることで外部の交流広場とつながり、コンサート、展示会をはじめさまざまな活用が担保されている。施設運用側からの積極的なサポートもあり、施設のさまざまな場所を住民が気安く使うことができる配慮に満ちていた。また、施設運用面で感心したことのひとつに、庁舎内には公共の施設にはよくある壁一面に乱雑に張られたポスター



行政棟



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中大工道具館新館 教習駅交流施設「オルパーク」駅前広場キャノピー TSURUMI子どもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコムーゼタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

建築主

より 「和のまち太子」に向けて

歴史的景観形成地区に接する本地区では、統一感のあるまちにしていこうと、現代の技術と材料で「和」の形質を抽出した創造の景観形成を進めています。

新庁舎においても景観にとどまらず、文化的な施設として住民に長く愛され誇りに思えるもの、風景中の記憶に残るものを目指してきました。

開庁後、約二年が過ぎ中庭で鳥のさえずり

や子供たちの遊び声が響いたり、地域交流館の多様な活用を目にしながら、住民サービスや公共施設のあり方を問い直す機会となりました。

この建築を通して、機能性やデザイン性だけを求めるのではなく、人の記憶に残る一流の公共サービスとして、「美しい普通」を目指していく大切さを強く感じています。今後も「和のまち太子」の実現に向け取り組んでいきます。



太子町経済建設部長
八幡充治
Mitsuharu Yabata

設計者

より



坂本昭・設計工房CASA
坂本 昭
Akira Sakamoto

風景と場を繋ぐ建築

聖徳太子ゆかりの地である兵庫県太子町は、斑鳩寺から太子山への南北の軸線が歴史的な意味をもつ地域です。新庁舎では庁舎機能に加え、住民に対し開かれた場を創出することが求められました。

これらの与件に対し、「人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる」をコンセプトとして掲げ、地域コミュニティの核となる要素を建築に織り交ぜ、都市計画やランドスケープ等の設計を並行して行いました。

全体の構成として、行政棟、議会棟、地域交流棟を分棟配置し、中庭を介して緩やかな繋がりを保ち、伝統的な日本建築に見られる雁行型配置、深い軒といった空間言語を現代に翻案することで、ヒューマンスケールの空間と住民の為の居場所を生み出すことを意図しました。

今後も新庁舎がまちの文化を伝える人々の拠り所となることに願いを込め、見守っていききたいと思います。

施工者

より

「基本に忠実な施工」で取り組む

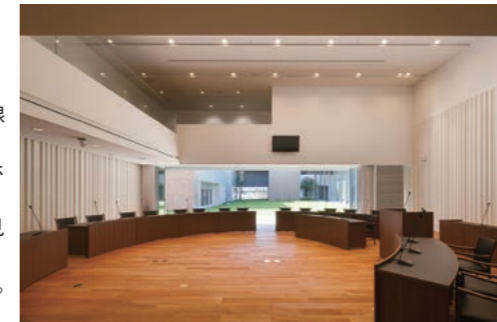
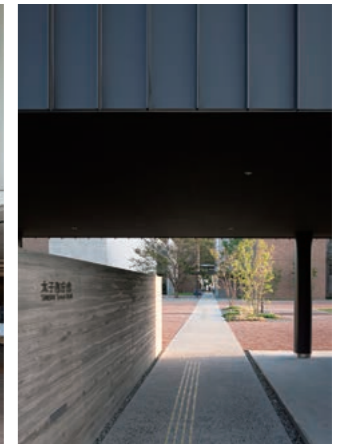
発注者、設計者から求められた空間は、華美ではない「美しい普通」であり、化粧コンクリート打放しが代表するようなシンプルな素材の組み合わせによって生み出される繊細かつ意匠性の高いものでした。我々はその想いの具現化に向け、「基本に忠実な施工」を基本方針とした上で、材料特性ならびに実物大模型による納まりの確認・検証など可能な限りの知恵と技術を結集して取り組みました。

また、本プロジェクトのコンセプト「人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる」に施工段階から寄与できればと考え、発注者と写真大会や芝張り体験などの工事段階における町民参加型イベントの開催や工事の進捗を伝える広報活動を行いました。

今後も本工事で得られた関係各位の熱意と努力を繋ぎ、更なる形として貢献できるように努力を重ねていきたいと思ひます。



大鉄工業株式会社
建築支店 建築工事第三部長(当時:所長)
高岡忠雄
Tadao Takaoka



右上/北側からの動線となるアプローチ
左上/エントランスホール
右下/交流広場を見る。(正面が議会棟)
左下/議会棟、議場。
正面が交流広場。

やビラが一枚もなく、またサインも竣工時に設置されたまま分りやすく機能的に使われていた。施設を美しく大切に使うという職員の気持ちも伝わり、税金もこのように使われるのなら、いたく納得した。

建物の分棟配置による利点として閉庁後の管理が容易になり、それぞれの棟ごとの運用が個別に行われ、住民の要望に応じて施設の利用が柔軟に行われている。交流館は、朝から夜まで小学生の遊びの場所、中高生の勉強場所、住民の方の待ち合わせやくつろぎの場、サークル活動やセミナーなどの場となっている。住民からは、自宅以外に安心してくつろげる居場所ができたという声も多いと聞く。

市町村庁舎ではめずらしい二十四時間開放されている外部空間の広場や通り抜けのできる小径は、住民が思い思いに楽しく使っている。

太子町新庁舎の建設に際し特筆すべき点として、設計では従来のよくある「高層庁舎」ではなく、「低層庁舎の集合体」のような、細部まで行き届いた小さな街区を提

案したことである。そしてもうひとつは発注側である太子町行政の、行政経験や慣習にとらわれない庁舎のあり方に対する透徹した施策である。プロジェクトの基本として「『行政サービスのあり方のコントロールまで統一しなければ住民に対して真のサービスにはならない』を掲げ、最終的には物も、人も、ひとつのプロダクトとしてトータルにデザインした」ことが具現化されている。

庁舎運営に対し大きな風穴をあけ、今後の庁舎建築の指標にまでつくりあげた、議会、行政そして担当者の方々の使命感に溢れた尽力は、高く評価されてしかるべきである。そしてその思いに十全に応えた設計者、高い精度の建築をつくり上げた施工者も同様に賛辞に値する。「新しい町役場がみんなの居場所になった」太子町新庁舎は、建築主である行政、設計者、施工者が一体となってつくり出した、BCS賞に相応しい優れた建築である。

【選考委員】
山本圭介・陶器三雄・河野晴彦

計画概要

建築主：太子町

設計者：坂本昭・設計工房CASA

施工者：大鉄工業(株)

所在地：兵庫県揖保郡太子町鶴280-1
竣工日：2015年8月12日

敷地面積：11,707㎡
建築面積：4,614㎡
延床面積：8,181㎡

階数：地上3階、塔屋1階
構造：鉄筋コンクリート造
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造)